

## 9 後天性免疫不全症候群

### (1) 定義

レトロウイルスの一種であるヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus; H I V)の感染によって免疫不全が生じ、日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態。

### (2) 臨床的特徴

H I Vに感染した後、C D 4 陽性リンパ球数が減少し、無症候性の時期（無治療で数年から10年程度）を経て、生体が高度の免疫不全症に陥り、日和見感染症や悪性腫瘍が生じてくる。

### (3) 届出基準

#### ア 患者（確定例）

医師は、(2)の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から後天性免疫不全症候群が疑われ、かつ、(4)イの届出に必要な要件を満たすと診断した場合には、法第12条第1項の規定による届出を7日以内に行わなければならない。

#### イ 無症状病原体保有者

医師は、診察した者が(2)の臨床的特徴を呈していないが、(4)アの届出に必要な要件を満たすと診断した場合には、法第12条第1項の規定による届出を7日以内に行わなければならない。

#### ウ 感染症死亡者の死体

医師は、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、後天性免疫不全症候群が疑われ、かつ、(4)イの届出に必要な要件により、後天性免疫不全症候群により死亡したと判断した場合には、法第12条第1項の規定による届出を7日以内に行わなければならない。

### (4) 届出に必要な要件

#### ア H I V感染症の診断（無症候期）

(ア) H I Vの抗体スクリーニング検査法（酵素抗体法（E L I S A）、粒子凝集法（P A）、免疫クロマトグラフィー法（I C）等）の結果が陽性であって、以下のいずれかが陽性の場合にH I V感染症と診断する。

① 抗体確認検査（Western Blot 法等）

② H I V抗原検査、ウイルス分離及び核酸診断法（P C R等）等の病原体に関する検査（以下「H I V病原検査」という。）

(イ) ただし、周産期に母親がH I Vに感染していたと考えられる生後18か月未満の児の場合には少なくともH I Vの抗体スクリーニング法が陽性であり、以下のいずれかを満たす場合にH I V感染症と診断する。

① H I V病原検査が陽性

② 血清免疫グロブリンの高値に加え、リンパ球数の減少、C D 4 陽性Tリンパ球数の減少、C D 4 陽性Tリンパ球数／C D 8 陽性Tリンパ球数比の減少という免疫学的検査所見のいずれかを有する。

#### イ A I D Sの診断

アの基準を満たし、下記の指標疾患（Indicator Disease）の1つ以上が明らかに認められる場合にA I D Sと診断する。ただし、(ア)の基準を満たし、下記の指標疾患以外の何らかの症状を認める場合には、その他とする。

#### 指標疾患（Indicator Disease）

##### A. 真菌症

1. カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）

2. クリプトコッカス症（肺以外）

3. コクシジオイデス症

①全身に播種したもの

②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

4. ヒストプラズマ症

①全身に播種したもの

②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

5. ニューモシスティス肺炎

(注) *P. carinii* の分類名が *P. jiroveci* に変更になった

B. 原虫症

- 6. トキソプラズマ脳症（生後1か月以後）
- 7. クリプトスポリジウム症（1か月以上続く下痢を伴ったもの）
- 8. イソスポラ症（1か月以上続く下痢を伴ったもの）

C. 細菌感染症

- 9. 化膿性細菌感染症（13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により以下のいずれかが2年以内に、2つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの）
    - ①敗血症、②肺炎、③髄膜炎、④骨関節炎
    - ⑤中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍
  - 10. サルモネラ菌血症（再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く）
  - 11. 活動性結核（肺結核又は肺外結核）<sup>(※)</sup>
  - 12. 非結核性抗酸菌症
    - ①全身に播種したもの
    - ②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの
- D. ウイルス感染症
- 13. サイトメガロウイルス感染症（生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外）
  - 14. 単純ヘルペスウイルス感染症
    - ①1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの
    - ②生後1か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの
  - 15. 進行性多巣性白質脳症

E. 腫瘍

- 16. カポジ肉腫
- 17. 原発性脳リンパ腫
- 18. 非ホジキンリンパ腫
- 19. 浸潤性子宮頸癌<sup>(※)</sup>

F. その他

- 20. 反復性肺炎
- 21. リンパ性間質性肺炎／肺リンパ過形成：LIP/PLH complex（13歳未満）
- 22. HIV脳症（認知症又は亜急性脳炎）
- 23. HIV消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）

(※) C11 活動性結核のうち肺結核及びE19 浸潤性子宮頸癌については、HIVによる免疫不全を示唆する所見がみられる者に限る。